

## 指標 17.18.1

### 指標名、ターゲット及びゴール

**指標 17.18.1** 統計能力指標

**ターゲット 17.18** 2020年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる。

**ゴール 17** 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

## データソースパフォーマンスインデックス（統計パフォーマンス指標）

### 定義及び根拠

#### ○ 定義

世界銀行が定義する各国の統計システムの成熟度とパフォーマンスを評価する統計パフォーマンス指標（SPI）の5つの主要分野（データ利用、データサービス、データ生成物、データソース、データインフラ）のうち、データソースに関する指標である。データソースパフォーマンスインデックスは、3つの次元（全数調査と標本調査、住民登録と人口動態統計（CRVS）、地理空間データ）で構成される。3つの次元は次のとおり。詳細は算出方法を参照。

#### 次元1：全数調査と標本調査

広範な地域を対象とした最近の全数調査と標本調査の利用可能性について評価を行う。対象となる全数調査と標本調査は以下のとおり。

人口と住宅センサス、農業センサス、企業・事業所センサス、所得・消費・支出・予算・統合調査に関する世帯調査、農業調査、労働力調査、健康・人口統計調査、企業・事業所調査

#### 次元2：住民登録と人口動態統計（CRVS）

住民登録および人口動態統計（CRVS）システムの利用可能性について評価を行う。

#### 次元3：地理空間データ

第一行政区画レベル（都道府県）の地理空間データの利用可能性について評価を行う。

○ 概念

第一行政区画レベル：

第一行政区画レベルは ISO 3166-2 を使用して定義されており、日本では都道府県を指す。

○ 根拠及び解釈

データソースパフォーマンスインデックスは、統計機関によって生成された情報源(全数調査と標本調査)、行政データ（住民登録と人口動態統計システム(CRVS)）、地理空間データなどの他の場所からアクセスされた情報源の3種類の情報源に分類される。これらの情報源の間の適切なバランスは、その国の制度的状況と統計システムの成熟度によって異なる。高いスコアは、利用されている情報源が必要な統計指標の生成を可能にしていることを意味する。

### データソース及び収集方法

次元1「全数調査と標本調査」と次元2「住民登録と人口動態統計(CRVS)」は、統計調査等が、各項目に適合しているかどうかを各府省に照会して得た回答を基にした。

次元3「地理空間データ」は、The Open Data Inventory (ODIN) の採点結果を参考として、各府省からの回答を得て算出した。

### 算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

データソースパフォーマンスインデックスは、合計で4つの項目を有している。次元1に「全数調査」と「標本調査」の2つ、次元2に「住民登録と人口動態統計(CRVS)」の1つ、次元3に「地理空間データ」1つである。全数調査と標本調査は同じ次元にあるため、3つの次元に同じ重みを与えると全数調査と標本調査という項目はそれぞれ1/6(合計1/3)の重みしか与えられないが、全数調査と標本調査は多くの指標を作成する上で重要であるため、全数調査と標本調査にそれぞれ1/4(合計1/2)の重みを与えられるように追加の重みが与えられる。

4つの項目では、それぞれの評価項目（全数調査、調査、住民登録と人口動態統

計（CRVS）、データカテゴリー）が設定されており、各項目には、異なる数の評価項目が含まれており、満点または部分点を得るための基準も異なる。各評価項目は、それぞれの評価基準に応じて0～1の間のスコアを得ることができる。項目としてのスコアは、各評価項目のスコアを算術平均することで算出される。全体としてのスコアはさらに、各項目のスコアを算術平均して100点満点化することで算出される。

各次元の採点基準及び完全又は部分的な評価を受けるための要件の説明は以下のとおり。

## **次元1：全数調査と標本調査**

### **1. 人口と住宅センサス**

人口センサスは、人口の規模、分布、構成に関するデータと、人口の広範な社会的・経済的特性に関する情報を収集する。また、世帯調査やその他の調査のためのサンプリングフレームも提供する。住宅センサスは、住宅の供給、構造的特徴と施設、健康と通常の家族生活条件の発展に関する情報を提供する。

基準	スコア
過去10年以内に行われた。	1
過去20年以内に行われた。	0.5
上記以外	0

### **2. 農業センサス**

農業センサスは、保有規模、土地保有、土地利用、雇用、生産などの農業活動に関する情報を収集し、農業調査のための基本的な構造データとサンプリング枠組みを提供する。農業センサスでは通常、すべての農業保有地を完全に列挙して主要な構造データを収集するとともに、サンプリング法を用いてより詳細な構造データを収集する。

基準	スコア
過去10年以内に行われた。	1
過去20年以内に行われた。	0.5
上記以外	0

### **3. 企業・事業所センサス**

企業・事業所センサスは、経済におけるすべての経済活動、雇用者数、事業所の規模に関する情報を提供する。ビジネス・レジスターの情報は事業所ベースであり、事業所、組織タイプ（子会社または親会社など）、業界分類、および営業デ

ータ（領収書や雇用など）が含まれる。

基 準	スコア
過去 10 年以内に行われた。	1
過去 20 年以内に行われた。	0.5
上記以外	0

#### 4. 所得・消費・支出・予算・統合調査に関する世帯調査

これらの調査は、家計所得（現物所得を含む）、消費、支出に関するデータを収集する。通常、所得、支出、消費に関する調査、家計に関する調査、これらが統合された調査が含まれる。

基 準	スコア
過去 10 年以内に 3 件以上行われた。	1
過去 10 年以内に 2 件行われた。	0.67
過去 10 年以内に 1 件行われた。	0.33
過去 10 年間で実施されていない	0

#### 5. 農業調査

農業調査は、農業センサスによって設定されたサンプリング枠に基づく農業保有の調査をいう。農地、生産、作物・家畜、水産養殖、労働力・コスト、時間利用に関する調査である。

基 準	スコア
過去 10 年以内に 3 件以上行われた。	1
過去 10 年以内に 2 件行われた。	0.67
過去 10 年以内に 1 件行われた。	0.33
過去 10 年間で実施されていない。	0

#### 6. 労働力調査

労働力調査は、国および地方の雇用または失業率、率または傾向における労働関連統計の標準的な世帯ベースの調査である。また、調査では、年齢別・性別の労働力状況、従業員と自営業者の内訳、公共部門と民間部門の雇用、複数の仕事の保有、雇用、雇用創出、失業期間など、雇用者と失業者の特徴が示される。

基 準	スコア
過去 10 年以内に 3 件以上行われた。	1
過去 10 年以内に 2 件行われた。	0.67

過去 10 年以内に 1 件行われた。	0.33
過去 10 年間で実施されていない。	0

## 7. 健康・人口調査

健康・人口調査は、医療費、アクセス、利用、結果など、住民の健康の様々な側面に関する情報を収集する。通常、人口統計および健康調査が含まれる。

基 準	スコア
過去 10 年以内に 3 件以上行われた。	1
過去 10 年以内に 2 件行われた。	0.67
過去 10 年以内に 1 件行われた。	0.33
過去 10 年間で実施されていない。	0

## 8. 企業・事業所調査

企業・事業所調査は、事業所センサスから事業所の主な活動に基づいて分類された民間および公共の事業体を含む事業所のサンプルから、従業員の雇用、時間および収入に関する情報を提供する。事業所調査には、企業、農場、施設の調査が含まれる。事業所自体に関する情報が従業員の属性や人口統計に関する情報のどちらかもしくは両方を尋ねる場合もある。

基 準	スコア
過去 10 年以内に 3 件以上行われた。	1
過去 10 年以内に 2 件行われた。	0.67
過去 10 年以内に 1 件行われた。	0.33
過去 10 年間で実施されていない。	0

## 次元 2 : 住民登録と人口動態統計 (CRVS)

住民登録は、個人の人生における重要な出来事(出生、結婚、離婚、養子縁組、死亡および死因を含む)を記録し、文書化する行為であり、各国政府の基本的な機能である。出生登録は、出生時の個人の法的身元を確立する。法的身分、氏名、国籍、年齢の証明は重要な人権である。これらは個人がさまざまな政府、社会および民間サービスに参加できるようにし、投票権なども含まれる。人口動態統計は、これらの人生における出来事に関する住民登録情報を用いて作成される。信頼できる最新の人口動態統計の利用可能性は、住民登録制度の発展度に依存する。効果的な住民登録および人口動態統計 (CRVS) システムは、複数の分野にわたるプログラムの計画および監視にとって重要である。データは UNSD のグローバル SDGs モニタリングデータベースから取得される。

基準	スコア
それぞれ少なくとも 90%の出生登録及び 75%の死亡登録の両方を満たす。	1
それぞれ少なくとも 90%の出生登録又は 75%の死亡登録のどちらかを満たす。	0.5
どちらも満たさない。	0

### **次元3：地理空間データ**

この指標の情報源は The Open Data Inventory(ODIN)である。ここでは、下記のデータカテゴリー内のデータが第一行政区画レベル（都道府県）で利用可能かどうかについて、それらの指標を使用する。第一行政区画レベルを特定するには、ISO 3166-2 を利用し、日本の場合は、都道府県を指す。

ODIN の評価では、社会統計、経済・金融統計、環境統計の 3 つに分類された 22 のテーマ別カテゴリーの公開統計がレビューされる。ODIN 2024/25 のデータカテゴリーは以下のとおり。

#### ■ 社会統計

1. 人口と人口動態統計
2. 教育施設
3. 教育成果
4. 医療施設
5. 健康成果
6. 生殖に関する健康
7. 食料安全保障と栄養
8. ジェンダー
9. 犯罪と司法
10. 貧困と所得

#### ■ 経済と金融統計

11. 国民経済計算
12. 労働
13. 物価指数
14. 政府財政
15. 貨幣と銀行
16. 国際貿易
17. 国際収支

注：ODIN 2024/25 では、デジタル接続性に関する新しいカテゴリーが試験的に導入されているが、結果は各国のスコアには反映されない。

## ■ 環境統計

18. 農業と土地利用

19. 資源利用

20. エネルギー

21. 汚染

22. 建造環境

各データカテゴリーがどのように評価されるかは以下のとおり。

基準	スコア
データカテゴリー内のすべての公開データが第一行政区画レベルで利用可能である。	1
データカテゴリー内の一部の公開データが第一行政区画レベルで利用可能である。	0.5
上記以外	0

## ○ コメントと限界

データソースパフォーマンスインデックスでは、行政データと地理空間データの分野でより多くの情報が必要である。行政データについては、国が健康、教育、労働、社会保護プログラムの統計を測定するための行政データシステムを整備しているかどうかに関する指標を追加することで状況を補完し、全体を把握することができる。地理空間指標については、例えば衛星データの利用など、国が地理空間情報を他の方法でどのように利用しているかを示す新たな指標によって、情報を補完することができる。また、世界は個人や市民が作成したデータ(例:移動、求職、ソーシャル・ネットワーキングに関するデータ)でますますあふれている一方で、地球規模で見れば、国の統計システムがどのように、この情報を取り入れているかを測定する信頼できる情報源は存在しない。しかし、将来的にはそれを測定するための手法が採用される可能性がある。

## データの詳細集計

なし

## 参考

- SDG Indicators Metadata Repository (United Nations Statistics Division)  
<https://unstats.un.org/sdgs/metadata/files/Metadata-17-18-01b.pdf>
- Statistical Performance Indicators (SPI) (World Bank)  
<https://www.worldbank.org/en/programs/statistical-performance-indicators>
- Open Data Inventory (ODIN)  
<https://odin.opendatawatch.com/>

## データ提供府省

内閣官房、内閣府、内閣府経済社会総合研究所、警察庁、総務省、法務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、農林水産省林野庁、経済産業省、経済産業省資源エネルギー庁、国土交通省、環境省、日本銀行

## 関連政策府省

総務省

## 担当国際機関

世界銀行